

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390500033		
法人名	医療法人すえひろ会		
事業所名	グループホームこうらく		
所在地	熊本県水俣市浜町1丁目12番9号		
自己評価作成日	H26年12月17日	評価結果市町村受理日	平成27年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成27年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

水俣市のほぼ中心に位置し、周辺は住宅街で近隣には八百屋・花屋・味噌やなどがある。又、バスの停留所やタクシー乗り場もあり交通の便がよく立ち寄りやすい。水俣市総合医療センターが近くにあり緊急搬送の安心にもつながっている。広く明るい敷地には近隣の方が育てた季節の花々が咲き入居者様の気分転換になっている。近隣の方々と絆を大切にし、入居者のペースで過ごせるよう、又、入居者の思いに寄り添うケア、笑顔あふれる暮らしを心がけ支援している。外部の方やご家族様、面会の方が行き来しやすい雰囲気づくりを大切にしている。法人内の研修や外部の研修に積極的に参加し学べる職場環境に恵まれており専門職業人として質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度のホームは管理者の変更や入居者の入れ替わりも見られるが、100歳を最高齢として90代の入居者と70歳代や介護度にも2極化が見られるが職員は一人ひとりの思いに寄り添い、穏やかな生活を支援している。100歳になっても自分の意思を持ち続け先祖供養ができることを楽しみにされる姿や、家族との富士山登山に挑んだ方等にこのホームの特徴が表出し、「わたしは わたしなりに 生きていきたい」とする理念の実践に、「心豊かな暮らしを支えます」とする家族や職員の思いが息づいている。母体を医療法人として、委員会活動が職員の質の向上として生かされ、職員の明るいケアや、小さなひやり・はっとを見逃さないケアが事故の無い安心した生活として生かされている。「自治会や地域をまきこむような種まき活動を」との事務長の言葉に、地域密着型としての姿勢が表れ、保育園や中学生との交流をスタートさせており、地域の中での更なるつながりが期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を職員間で共有し、基本的ケアの指針を個々に理解し日々実践している。	開設時からの理念及び理念を具体化したケア指針を規範として、入居者との話の中で、希望や思いを感じとり、職員間での共有を図っている。また、年間目標の中間評価や最終評価を通じ、理念である「私たちは、わたしたちなりに生きてゆきたい」を、支える原点として「私たちは地域とともにより濃い、心豊かな暮らしを支えます」を振り返る等、全職員に理念が深く浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月2回の回覧板を近隣の方に回したり、日常の挨拶や井戸端会議など話をする機会を作っている。運営推進会議に近隣の方が参加されたり、近所の八百屋に入居者と一緒に買い物に行ったり又、近隣の保育園児との交流の幅が広がってきている。	自治会に加入し回覧板の受け渡しや散歩時の歓談及び散歩時に保育園を回っていたことをきっかけとして園児も散歩途中に折り紙を持参してくれる等昨年度より更に地域とのつながりを深めている。近隣住民による環境整備や運営推進会議参加等近隣住民からも優しく見守られている。また、中学のコーラス部との交流や防災訓練時には住民の協力も得られているが、外に向かった交流はもう一歩として、入居者の「家に帰りたい」との思いにその方法として逆デイを検討している。	運営推進会議の中の“こうらく便り”を地域に回覧すること等の意見交換が、ホームの啓発や情報発信とすることを可能として、更にホームに気軽に立ち寄り易い雰囲気や近隣住民へ声かけをしていく意向である。家族との祭りをスタートされており、次回開催時には近隣住民にも呼びかけられることを検討いただきたい。まずは訪問しやすいきっかけの一環とされることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に地域住民に分かりやすく入居者の事例を挙げ対応や対策など報告し理解を深めてもらっている。又会議中に自身の認知症に対する介護の質問があった場合には分かりやすく説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で入居者の実践事例報告や行事、活動、研修状況の報告を行っている。市や包括支援センターからの情報やアドバイスを取り入れ質の向上に努めている。	定例化した運営推進会議は事前にテーマを決めて案内しており、事例紹介や地域情報交換・ホームの在り方についての意見交換等双方向の有意義な会議である。ホーム便り活用方法の検討や行政からの時節に応じた情報発信の他、地域の在宅生活困難事例等のアドバイスを心得る機会として生かされ、参加委員からの質問に包括職員から具体的な説明が行われている。次回の運営推進会議の中で夜間想定避難訓練が計画されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域密着型会議などを通じ相談、情報交換し協力関係を築いている。市からの聞き取り調査会議に積極的に参加し意見交換を行っている。	行政主催の集団指導や水俣の6事業所での地域密着型会議での情報交換の他、運営推進会議録等の報告書を持ち届け情報を発信したり、介護保険更新調査に立ち会い意見交換を行っている。介護保険サービス事業所向けアンケート調査や台風時には避難することを連絡したり、ホームもサポートセンターとして、相談事例の報告や申し込みを報告する等地域包括支援センターと連携を図っており、各機関との協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会で行う全体研修に全員参加もしくは伝達講習にて高齢者虐待について理解を深めている。言葉や対応による拘束がない様に例を挙げて職員全員で取り組んでいる。	年2回の研修(法人の身体拘束廃止委員会)に参加した職員による復講を行っており、全員が拘束の弊害を正しく認識している。センサーやベッド柵の必要性等常に話し合い、車椅子利用者にも座りっぱなしにしない事を申し合わせ、言葉使いや口調等職員同士で注意喚起している。入居時には家族に帰りたいと電話されていた入居者も今ではホームに馴染み、落ち着いて生活されており、玄関等開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の全体研修に全員参加し高齢者虐待等の学ぶ機会があり個々に内容を理解し虐待防止に努めている。虐待に繋がるような例があれば業務手順やマニュアルで再確認し意識を変えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で行う権利擁護の研修や介護保険事業者で行う研修に参加し理解を深めている。個々の必要性があれば関係者と話し合うようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書に添って説明を行い利用者や家族の不安や疑問点がないか訊ねている。法改正時は重要事項を改正し新たに説明を行い理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時又は電話でご家族様に利用者の心身の状態を報告し要望や意見を求めている。又運営推進会議等で家族代表として意見・感想を述べてもらい、他の人からの意見を反映している。	入居者と職員との馴染みの関係が構築し、良く会話を交わしており、「何でも仕事があったら手伝います、仕事をください。」と申し出る方もおられる。家族には訪問時に現状を報告し、要望等を収集し、遠方の家族には電話により聞き取りしている。家族から要望がだされることをありがたいと受け止め、全員で検討しており、手すりの設置等家族の意見を反映させている。また、運営推進会議も問題提起の場として運営に反映させている。	意見箱は設置されているが、利用されたことは無いとのことである。ホームの夏祭りは家族との交流会として生かされており、家族が集まれる機会に家族との意見交換の時間を作られることを検討いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の運営会議や日常の業務を行いながら、運営に関して職員から意見や提案を聞く機会を設け、場合によって法人と調整しながら運営に反映して。	管理者は日々ケアに入り職員の意見や提案を聞き取り、朝のミーティング時には入居者の状況の把握や確認事項を共有している。毎月の運営会議の中で問題点や職員の意見・提案事項の検討や業務について意見交換を行い、看護部長も参加されており、看護的立場での意見等も出されている。休憩時間の取り方や席替え等職員の提案事項にまずは取り組んでみる事としている。法人全体で行う各委員会等ケア向上への真摯な取り組みや役割分担としながらも意思疎通も良い環境である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望休や夜勤バランス、時間内に退勤できるように配慮した就業環境は整っている。個々の特徴を生かした業務、役割をさせる事でやりがいや向上心を持って働けるように整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の力量を見ながら学ぶべき研修を外部研修や法人内の研修に参加できるように案内し、働きながらトレーニングできるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型会議や水俣・芦北ブロック会議、介護保険事業所で行う研修会のグループワーク、交換研修などで同業者と交流する機会が来ており、サービスの質を向上させるように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の心身の情報を家族から聞きながら要望や生活歴、不安なことや予測されることを十分に話し合っている。入居時は特に本人と信頼関係を構築し安心した生活ができるように勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望、不安、困っていることを話しやすいように傾聴を主において、芯になるものをつかみながら情報を共有し信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の要望を聴きながら必要としている支援を見極め、幅広い対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者・職員がともに暮らす家として、本人に出来ることを協力してもらい、助け合いながら生活できるように双方の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活を通し、日頃の状態を面会時に報告し、相談事や協力してほしいことをお願いしながら、暮らしをともにする者同士の関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	1人1人の本人の馴染みの物を大切にし、行きつけの場所や友人の面会、懐かしい場所、社会との接点を大切に途切れないよう、支援に努めている。	入居者がこれまで築いてきた社会との関わりや、馴染みの場所・人との関係性を家族等の協力を得ながら支援している。盆・正月の帰省や美容室からの送迎による継続利用、久しぶりに元部下から年賀状が届いたり、多くの暑中見舞いや年賀状をもらい返事を出す方、家族との富士山登山、100歳になってもご先祖供養が出来る事を喜びとして家族との墓参を心待ちされる等これまでの人生が凝縮した支援を継続されている。家族や友人等の訪問も多ホームである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を理解し、関係が良好に保てるように、間に入りフォローしたり、お互いを認め合うことが出来るようまた、孤立することなく平等に接している。入居者同士が支えられるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は必要に応じて相談や支援の体制は出来ている。終了後、尋ねてこられ必要な書類の整理に協力している。暮らす中で出合った時は声をかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で言葉として伝えられたり、感じとる本人の思いや意向を把握し支援している。困難な人には接する中で、行動や表情を見極め、職員同士が共有、本人本位で検討している。	職員は日々入居者とのコミュニケーションに努め、「よく〇〇へ行っていた」「お参りしたい」等会話から得た情報と一緒に出かけている。家族や知人からの情報をヒントに申し送りノートによる共有化や、カンファレンスの中で話し合い、プランに反映させ実践している。発語困難でも表情・感情等により思いを推察したり、選択しやすい声かけ等により思いを引き出し、ケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方を友人や家族から情報を得ながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人が生活を送る中で、身体状況、健康状態をまず把握し、それに伴う心の状態と重ねながら把握に努めている。日々出来ることや出来ないことなどを発見し、有する能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良い暮らしが出来るように本人や家族、職員や友人などと話し合い、現状に即した介護計画に結びつけている。	本人・家族の意向をもとに、ケアのみならず1日に1回は笑いのある生活や本人が大切にしている事等“私はわたしなりに生きていきたい”とする理念は個別的なプランとして表れている。毎月のモニタリング、3ヶ月毎の評価、プラン見直し時にはアセスメントも見直している。バイタルと介護記録の一体化や経過記録等により個々の現状を共有し、プラン見直しに反映させている。介護認定更新時には本人・家族・姉妹及び介護計画担当者と担当職員との話し合いにより新たなプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画サービス内容に沿ってケア内容、気づき、実践を記録している。特に気づきや変化があった場合にはより詳しく記録し、職員間の情報の共有に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じてニーズを把握し、幅を広くもって調整しながら柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にどんな資源があるのか把握し、本人の力を確かめながら安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医との関係が継続できた支援を行っている。又かかりつけ医とよい関係が築けるように状態報告や相談など行っている。	入居前からのかかりつけ医を継続し、受診を家族と協力し合い支援し、受診時の情報提供や受診結果の共有を図りながら入居者の状態把握に努めている。又、体調変化により往診の対応が必要となった場合は家族と相談し、日常の健康チェックにより異常の早期発見に努め、看護職(管理者)とのオンコール体制等入居者の体調維持に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のかかわりの中での変化や気づきを早め早めに相談し、適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、サマリーを利用し情報を提供、病院関係者との連携に努めている。入院中の経過を情報提供受け、必要な受け入れ状態を前もって整えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の状況を予想し、早めに家族と話し合いながら、経過の中で修正したり、確認をしながら事業所に出来ることを考え支援している。	看取りの方法を家族と一緒に考え、援助方針を決めていく旨の看取り指針を作成し、説明と共に緊急時等の家族の希望を確認している。重度化状態から回復された方もおられ、今後も主治医との連携を深め個別に聞き取りをしながら、ホームでできる限りの支援に努めていきたい意向である。	出来る限りホームでの生活を望まれる家族の意向を実現するため、終末期ケアの研修等今後も継続して参加されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を研修で繰り返し訓練し、実践力を見につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を実地、近隣との協力体制を構築している。	火災避難訓練やコンセントの埃等日常の点検を行い意識付けに努めている。又、地域の津波訓練に参加したり、民生委員から配布を受けた区の防災委員等の情報や自主防災組織についての「災害に備えた安全対策」を備え、区の隣保協働の一員として有事の際は近隣への声かけを申し合わせている。今年度の台風接近の際は母体施設への避難を体験し、台風マニュアルを見直す等、防災に関する高い意識が窺われる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束委員会の研修に全員参加しており、1人1人を尊重した丁寧な言葉かけに心がけている。又記録の勉強会を通して本人の行動や言動に使ってはいけない用語などで確かめ意識を高めている。	入居者を人生の先輩として敬い、身体拘束委員会で作成した「言葉の拘束チェックリスト」により言葉かけについて検討し、記録の仕方や用語についても配慮している。排泄や入浴時はプライバシーの確保に努め、ホーム便りへの写真使用等についても慎重に取り扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり待つ姿勢で傾聴し本人の思いに耳を傾け、言葉や表情で意思表示できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に流されないように職員同士入居者のペースをくみ取り、お互いに協力しその人がその時をどう過ごしたいのか希望に沿って支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗面介助や口腔ケア、着替えなどを個々の力に応じて介助し、その人らしい身だしなみ、おしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや見た目、その人に合った食事の形態を考え楽しくおいしく食べることが出来るように工夫している。食事の下ごしらえなど入居者の力に応じて準備を一緒に行っている。	法人栄養士の立てた献立を使用しながらホームで調理し、食事準備の音や匂いで食への意欲を引き出している。入居者の中には食事作りに関わる事が役割として活性化となり、野菜の下ごしらえや干し柿づくり等に取り組みされている。誕生日には本人の好みのメニューでの提供や行事食や花見弁当等を楽しみ、個々に応じた形態や全員そろった食卓で入居者の号令で摂られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士の献立に基づいてバランスのよい食の確保が出来ている。病状に応じて食事の形態や内容、食事量を検討しながら支援している。お茶の時間は十分補給できるようにすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じて口腔ケアを行い、清潔に保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや排泄のサインを把握し、なるべく排泄による失敗がないようにトイレでの排泄を支援している。	排泄チェックを実施し、個々に応じた声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。入居者の殆どが布下着で気持ち良い排泄に努め、在宅での困難事例も職員のケア力で現在はスムーズに自立に向けた支援となっている。排泄用品の材質等について検討したり、夜間はポータブルの使用もあり昼間はカバーをし尊厳や居室環境にも配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補強や野菜を必ず食事にとり入れた食事メニュー、運動など個々に応じた便秘対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に希望を聞きながら時間の確認を行い、ゆっくりと入浴を楽しんでもらえるように支援している。	毎日入浴できるよう準備され、入浴前のバイタルチェックで体調を把握し、その日の予定や入居者の希望に添いながら支援している。入浴時間(一番風呂等)の希望に応えたり、浴室マットの購入や夏場のシャワー浴の導入等職員の意見を活かし、ゆっくりとした支援に努め、ゆず湯や入浴剤で香りや色を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望や、意思を表示できない人には時間を見ながら休息の時間を確保している。気持ちよく眠れるように環境調整にも心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の確認を1人1人行っており、薬の目的や副作用、用法や用量をダブルチェックしながら服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や今まで続けてきたことを張り合いとして日々を過ごせるように支援している。家事手伝い等個々の力に応じて役割を持った生活が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の方の協力による外出支援は出来ないが、家族の支援はあり、個々の希望に沿って機会を作り出かけられるように支援している。	今年度は外出の機会を増やし地域との関わりを持ちたいとして、散歩等に積極的に出かけている。時にはウッドデッキでの外気浴や食事を楽しんだり、全員での花見には弁当持参で出かけ、バラやコスモス等の見物が支援されている。家族の協力も得られ、受診時の外食や、富士山への旅行を楽しみに事前の歩行訓練により実現した方や、生まれ故郷への墓まいりを予定されている方等、今出来る事を楽しみとして家族と共に取り組んでいる。	地域行事への参加等については今後の課題としており、今後も入居者の希望や地域行事をリサーチした外出の継続が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力に応じ、家族の協力の基所持し、希望時に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった場合にはいつでも電話がかけられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は生活に明るく、窓から見える風景は季節の物が感じられるように環境整備している。	住宅地に溶け込んだホームは庭造りやウッドデッキ等家庭的な佇まいである。静かなホーム内の二つのリビングは食事の場所と寛ぎの場所として使い分け、足踏みオルガンに懐かしさが感じられる。レイアウト変更は入居者が一堂に揃う時間も長くなり、入居者の歌声が響いている。玄関先の花々や置物などに季節感が溢れ、温湿度管理で快適な共用空間となっており、今年度新たに玄関や非常口に手すりを設置し安全に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人1人が限られた場所で居心地よく過ごせるように気の合った入居者同士や椅子、物の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が落ち着けるような部屋作りを家族の協力の基行い、居心地いように支援している。	家族と一緒に家具を配置する等一人ひとりの個性あふれる居室となっており、書棚やテレビ・携帯電話等個々に応じた持ち込みがされている。バルコニーの鉢植えに水をやったり、家族や担当職員と共に衣替えや清掃を行い、本人にとって大切な物に囲まれた自分の部屋での生活が支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や居室の場所が分かりやすいように目印をし、安全で自立した生活が出来るように支援している。		